2018年度

③ 数 学

(100点 60分)

〈注 意 事 項〉

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 問題は2ページから9ページまでです。全問解答しなさい。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明,ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気 付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それ ぞれ正しく記入し、マークしなさい。
 - ① 氏名欄氏名・フリガナを記入しなさい。
 - ② 受験番号欄受験番号(数字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。
- 5 正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。
- 6 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

〈解答上の注意〉 ————

解答上の注意は、裏表紙に記載してあるので、この問題冊子を裏返して必ず読みなさい。ただし、問題冊子を開いてはいけません。

第1問 (配点 25)

(1) $x+y=3\sqrt{2}$, xy=3 $0 \ge 3$,

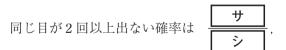
$$x^2+y^2=$$
 アイ , $\frac{1}{x^2}+\frac{1}{y^2}=$ エ

である。

(2) 三角形 OAB において、OA = 4、OB = 6、 $\cos \angle$ AOB = $\frac{1}{4}$ とする。外接円の半径 ϵR とおくと、

である。

(3) 1個のさいころを3回投げるとき,



出る目の最小値が2、最大値が5である確率は



第2問 (配点 25)

 $x \ge 0$ で定義された関数

$$f(x) = 4^{x} + 4^{-x} - 5(2^{1+x} + 2^{1-x}) + 26$$

を考える。

(1) f(0), $f(\log_2 3)$ の値は

$$f(0) = \boxed{ \mathcal{P} }, \quad f(\log_2 3) = \boxed{ \frac{1 \dot{7}}{\boxed{ 1}} }$$

である。

(2) $X = 2^{x} + 2^{-x}$ とおくと、Xがとりうる値の範囲は

であり、f(x)をXの式で表すと

$$f(x) = X^2 - \boxed{$$
 $b + \boxed{} X + \boxed{}$

である。

(3) f(x) it

をとる。

(4) 方程式 f(x) = 0 の解は

$$x = \log_2\left(\boxed{ \mathcal{Z}} + \sqrt{\boxed{} \mathcal{Z}} \right), \ \log_2\left(\boxed{ \mathcal{Y}} + \boxed{} \mathcal{Z} \right)$$

第3問 (配点 25)

関数 $f(x) = x(x-3)^2$ のグラフy = f(x)をCとおく。

(1) f(x)の極値は

(2) Cの原点における接線の方程式は

$$y = \boxed{} x \quad \cdots \quad \boxed{1}$$

であり、①と平行な C の接線の方程式は

(3) aを正の定数とする。放物線 $P: y = 2x^2 - ax$ とC がちょうど 2 個の共有点をもっとき、aの値は

$$a = \boxed{\tau}$$

であり、そのときの共有点の座標は

$$(0, 0), (\Box \Box, \Box)$$

である。さらに、CとPで囲まれた範囲の面積をSとおくと、

$$S = \begin{array}{|c|c|} \hline & \searrow & \\ \hline & & \\ \hline & & \\ \hline \end{array}$$

第4問 (配点 25)

平面上に5点O, A, B, P, Qがあり,

$$\overrightarrow{OA} = \frac{2}{5}\overrightarrow{OP} + \frac{4}{5}\overrightarrow{OQ}, \overrightarrow{OB} = \overrightarrow{OP} + \frac{1}{3}\overrightarrow{OQ}$$

が成り立つとする。

(1) 直線OAとPQの交点をRとおくと,

$$\frac{QR}{PR} = \frac{\overline{\mathcal{P}}}{\boxed{1}}, \frac{AR}{OR} = \frac{\boxed{7}}{\boxed{1}}$$

である。

(2) \overrightarrow{OP} , \overrightarrow{OQ} を \overrightarrow{OA} , \overrightarrow{OB} で表すと,

$$\overrightarrow{OP} = -\frac{\boxed{\cancel{7}}}{\boxed{\cancel{D}}} \overrightarrow{OA} + \frac{\boxed{\cancel{\$}}}{\boxed{\cancel{7}}} \overrightarrow{OB}, \quad \overrightarrow{OQ} = \frac{\boxed{\cancel{7}}}{\boxed{\cancel{3}}} \overrightarrow{OA} - \frac{\boxed{\cancel{\$}}}{\boxed{\cancel{\flat}}} \overrightarrow{OB}$$

$$|\overrightarrow{\mathrm{OP}}| =$$
 ス $\sqrt{$ セソ $}$, $|\overrightarrow{\mathrm{OQ}}| =$ タ $\sqrt{$ チ $}$, $|\overrightarrow{\mathrm{OQ}}| =$ タ $\sqrt{$ チ $}$,

であり、 \overrightarrow{OP} 、 \overrightarrow{OQ} のなす角を θ とおくと、

〈解答上の注意〉

1 問題の文中の P , I などには、特に指示がないかぎり、符号(-, \pm)、数字($0\sim9$)が入ります。P, I , I , …の一つ一つは、これらのいずれか一つに対応します。それらを解答用紙のI , I , …で示された解答欄にマークして答えなさい。

例1 アイウ に-83 と答えたいとき

ア	
1	$\ominus \oplus$ 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
ウ	→ ⊕ ① ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ 8 ⑨

2 分数形で解答する場合は、既約分数(それ以上約分できない分数)で答えなさい。 符号は分子につけ、分母につけてはいけません。

例2 $\frac{ + 7}{ }$ $c - \frac{4}{5}$ と答えたいときは、 $\frac{-4}{5}$ として

+	⊕ ⊕ 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9
ク	$\ominus \oplus 0 \oplus 2 \oplus 6 \oplus 8 \oplus 9$
ケ	$\ominus \oplus 0 \oplus 2 \oplus 4 \oplus 6 \oplus 9$

3 根号を含む形で解答する場合は、根号の中に現れる自然数が最小となる形で答えなさい。

例えば、 コ
$$\sqrt{\frac{ }{ }}$$
 , $\frac{\sqrt{\sqrt{2}\lambda}}{\sqrt{2}}$ に $4\sqrt{2}$, $\frac{\sqrt{13}}{2}$ と答えるところを, $2\sqrt{8}$, $\frac{\sqrt{52}}{4}$ のように答えてはいけません。